

煙突除去工事作業留意点

除去時の陽圧についての考え

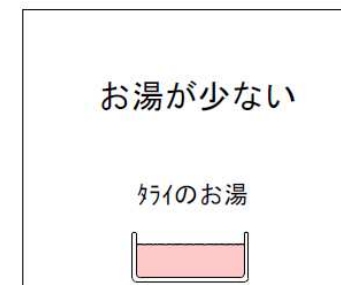
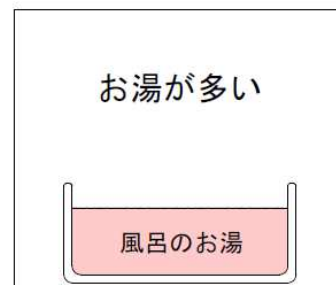
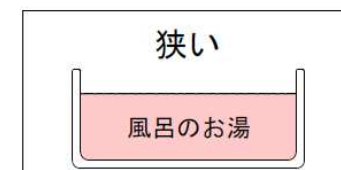
なぜ陽圧になるか①

- 煙突除去の際、噴射動作で生じる摩擦力により**70℃**程度の温水に変化し場内の気温を上昇させている。それによって脚部場内の温度が外気温より上昇することにより熱膨張する。気球の原理と類似する。
- 除去時の重堆積石綿の落下により、煙突内部からの下流風がながれ場内に流れる。

陽圧になりやすい条件

- 狭い脚部の場合、体積が少ないため温度上昇が早い。
- お湯の量が多いため温度上昇が早い。

* 圧力が高いほど、水温が高くなり、水量が増える。



工事計画者と作業主任者の留意点

- 脚部の隔離空間を大きく取る。
- 社内規定の**-30～-40Pa**を維持する。
- 除去作業時、熱源発生場所（灰出し口）上部を局所換気する。
- 重体積石綿の落下をなくす。
- 脚部セキユリティールームからの吸気の確認を行う。

作業員の留意点

- 局所換気が確実に行われているか確認。水蒸気が場内に対流することを防止する。
- 負圧集塵機の水滴付着による圧力損失を防ぐ。
- 作業場内のミスト状態の確認。透明シートから外部が結露により見えなくなる。シートが膨らむ（膨張のサイン）。
- 重堆積石綿が落ちないように頭頂部との連携をとる。

まとめ

- 測定実施時には、低圧力（低温・低水量）で除去する。
- 除去前には必ずカポスタック **-20Pa**、ニューカポスタック **-30Pa**以上を確認する。
- 測定時に作業を行う場合は必ず監視員を常駐させる。
- 脚部作業区画は大きく取り、必ず灰出し上部に局所熱源排出用負圧集塵機をセットする。
- 上部区画に負圧集塵機を設置する。